

○ NGNコストドライバの見直しに関するWGにおける検討の終了後、NTT東日本・西日本において以下の点について再検討した旨の申告が総務省にあった。

- ① 新たな係数を反映したコストドライバの適用範囲
- ② 新たな係数と既存の係数(QoS換算係数)との併用・方法

### NTT東日本・西日本による再検討結果

#### ① 新たな係数を反映したコストドライバの適用範囲

適用範囲については、優先制御に係るQoSクラス別の実態コストの特定が困難な状況において、全クラスの遅延時間が解消する必要設備量、すなわち必要帯域に着目して、数理的に必要帯域の比率をコスト差として求めていることから、数式の適用範囲は帯域を起因にコストが変動する中継ルータ・伝送路とすることが適切と考える。

#### ② 新たな係数と既存の係数(QoS換算係数)との併用・方法

新係数とQoS換算係数との併用については、数式でコスト差を算定している範囲については、個別に実態コストを把握することが困難なため数理的にコスト差を求めるという前提を踏まえれば、帯域制御による影響についても、同様に数理的に求めるという考え方にも一定の合理性はあると考える。したがって、計算の前提となる帯域使用率( $\rho$ )にQoS換算係数(上乘せ帯域)を反映する再検討案を提案する。

### 再検討した新係数

前提:  $\rho = 0.2 \times \text{上乘せ帯域 (最優先:} \times 1.20, \text{高優先} \times 1.16) = 0.20022$

算定式: 実トラヒック  $\times$  新たな係数

※現行のQoS換算係数の適用範囲に対して、上乘せ帯域を加味。